

なま

6月号
vol. 196



だから、
歩かなくてゆー
第3回
まちづくりの歩み

特集

「森の愉快な仲間たち」
吉田 昌弘
(ビッグ・アイあーと工房みずのみぼ)

だから、 歩いてゆく

第3回

まちづくりの歩み

幸せは歩いてこない…。どうやら差別は簡単にはなくなりそうがない。この世からあらゆる差別がなくなる「幸せ」はやってくるのだろうか。だから、歩いてゆく。これまで歩みながら考え感じてきたことを率直に語ってみたい。部落解放同盟西成支部創立70周年記念特別企画(全3回)。

『なび』編集部歩こう会

「西成」の差別

本特集では前回、前回と部落差別を取り上げてきたが、私たちが暮らす西成には、街そのものに対する差別も存在し、「西成差別」と呼ばれている。例えばYouTubeで「西成」で検索をかけると、西成グルメ紹介動画が表示される一方で、「スラム街」や「危険」といった文言を含む動画のサムネイルもたくさん表示される。それらの動画を観ると、あたかも西成は「危ないところ」「怖いところ」といった偏見に満ちたイメージをなすり付けるものが多い。動画撮影のためだけにほんの少しだけ西成に来た人が全てを知っているかのように「西成は」と語っているのを見ると、ひどい嫌悪感を覚える。

今年の2月、某新聞のコラムで西成のことが書かれた。執筆者は「遠いダム現場に行かされて死亡し、そのまま埋められた人がある」という都市伝説を紹介したり、ある著作の「犯罪者も潜伏できる街」といった文言を引用したりして、その頃世間の注目に集めていた、いわゆる「ルフィ事件」との共通点をほのめかしている。フィリピンの収容所と西成はともに「訳ありの人に居心地が良い」らしい。

大きな影響力と社会的責任が伴うはずの新聞という媒体が、西成に関する記述をこのように使う文章を掲載した。西成を知らない人がこの記事を読めば、おそらく西成のイメージを悪化させるだけだろう。まさに偏見や差別の助長である。執筆者は「差別の意図はなかった」と弁明しているが、それならなおのこと、組織としてのチェックが働かなくてはならない。私たちはメディア企業の社会的責任とそれを全うできる編集体制づくりを求めたい。なお、このコラムに対しては各方面から強い抗議があり、コラムの責任者などが現地のフィールドワークを行い、社内の人権研修を更に徹底することになったらしい。

『部落問題・人権事典』では西成差別は「大阪市西成区内の同和地区住民に対する部落差別、釜ヶ崎(あいりん)地区の日雇い労働者に対する偏見、定住韓国・朝鮮人に対する民族差別、障害者差別などがからみ



あい、老朽木造住宅密集地域という劣悪な生活環境も加わり、西成はこわい所へ西成はきたない」というマイナスイメージが形成され、結婚、就職等に人権侵害をもたらしている社会意識」と説明されている。先のコラムでは、寄せ場に対する偏見が「西成」という地名に結び付けられていた。同

こういう事情もあって、西成では街そのもののイメージを転換すべく、まちづくり運動を推進してきた。次世代を生きる若い人びとが「西成に生まれ住んでよかった。住んでみたい。移り住んで良かった。」と思える街とはいかなるものか。

まちづくりの伝統

今年3月11日に開催された部落解放同盟西成支部結成70周年記念集会のシンポジウムでは、現在の解放運動には二つの方針があると語られた。①部落アイデンティティに関わる差別事件を解決する社会運動の方針と②地域共生社会を実現するためのまちづくり運動の方針である。西成の解放運動では伝統的に後者の方針が重視されてきたように思う。「西成の解放の父」松田喜一さんの活動がまさにそうだった。

松田さんは、戦前は全国水平社創立に、

戦後になると、焼け野原となった西浜（現浪速区にあった旧地名）で多くの人々の生活の立て直しや住宅要求闘争に奔走された。西成の解放運動のはじまりとされる文化温泉も「地域の人々がいつでも気軽に安い料金で利用できる公衆浴場を」と松田さんらによって提唱された。

松田さんの死後、1965年に同和対策審議会答申が出され、1969年に同和対策事業特別措置法が施行され、解放運動の成果と共に西成の環境もどんどん整備されていく。住民参加のまちづくりも推進されてきたかに見えたが、2002年に特措法が終了すると、隣保館機能を持つ地域の三館（人権文化センター、延寿荘、青少年会館）は「市民交流センターにしなり」「一館に集約された（2010年）。しかも2016年3月の廃止は決定されていた。

以上のように、大阪市行政は隣保機能をもつ地域の公営施設を廃止し撤退していく。しかし、地域には社会的困難を抱えた住民が存在する。今後も隣保機能をもつ施設は地域に必要とされるにちがいない。そこで、地元の民間団体によって設立された



このように住民のみんなが共に取り組み高め合うことが、地域福祉の向上に繋がるとあいのような隣保事業の担い手である。今年3月には記念集会の開催に合わせて、ゆくとあい職員の一人を中心に西成発の和太鼓ユニット「心」が結成された。「心」には和太鼓の歴史としての部落問題を伝

のが、にしなり隣保館「スマイルゆくとあい」である。現在のゆくとあいは行政からの支援を受けることなく民間で運営している。今後、再び行政が私たちのパートナーとして隣保事業に参画してくれることを望む。

まちづくりの芽吹き

現在、ゆくとあいでは、子どもから高齢者まで様々な世代の居場所事業、若者や子育て層の居住支援事業、住宅自治会応援事業、生活困窮者の自立を応援するくらしセーフティストア事業、各種相談事業など、地域住民の暮らしに必要な地域福祉事業を、同じ志をもった地区内外の団体と取り組んでいる。

開設から7年目、これらの取り組みの成果が芽吹き始めている。たとえば、未来を担う子どもや若者への取り組み。西成区では毎秋「西成区民体育レクリエーション大会」が実施されている。私たち「長橋町会」は最下位やブービーが定位置であったが、2021年には8位、2022年は準優勝と大躍進を果たした。



この躍進の理由は、たくさんの子どもや若者の参加にあると思う。かれらはみな、ゆくとあいで実施している「やってみよう屋」「よってみよう屋」「ぎずなクラブ」等の居場所事業や居住支援事業でつながった人びとだ。そして、そんな子どもや若者の姿を見て、学校の先生方も懸命に参加してくれた。町会のみなさんもこの結果をとて喜び、より積極的に参加してくれた。

えることや、また和太鼓を介した居場所という役割を期待している。地域の子どもや若者が鳴らす太鼓の力強い音が地域を明るく元気にしてくれるだろう。

居住に関するまちづくりも求められる。西成には改良地、未利用地、空き家、市営住宅など課題が山積みだ。時代の流れとともにコミュニティバランスが崩れた市営住宅では、自治会運営が困難になっており、ゆくとあいはその運営を応援する事業を展開している。

まとめ

本特集を振り返ってみよう。第一回では、差別を未然に防ぐための法整備の必要性を述べた。第2回では、インターネット上の人権侵害に焦点を当て、プロバイダへのアプローチや「ABDARC」のように差別行為に対してネット上でNOを訴える活動を紹介した。これらを差別の非を打つ活動とするならば、今回のまちづくり運動はポジティブな気持ちで取り組める活動といえる。「西成」や部落に対するイメー

ジを転換するには、そのポジティブな気持ちを共有することが大切だ。「西成に生まれ住んでよかった。住んでみたい。移り住んで良かった。」はその先にある。だから、私たちは歩いてゆく。





おかんのため息

- おかん はあ…。GWは久しぶりに賑やかやっとなあ。
- ◆ 息子 その節は子どもがお世話になりました。
- 家族が揃うと楽しいな。
- ◆ ほんまに。
- 家族のかたちはいろいろあるで。
- ◆ お、本題やな。
- うん。だから、介護のかたちもいろいろや。あれは、母一人、子一人の介護でも理想的なっちゃうかなあ。
- ◆ 誰のこと？
- 娘のさっちゃんのが「コミュカ」が高いいかな、お母さんの介護を一人で抱え込まん頼れる人を何人もつくって、お母さんと仲良くしてはってん。インスタにもよう上げてはった。
- ◆ ほう。
- 介護はじめてしばらくは一人娘やから「自分が面倒みないアカン」って思い詰めてたらしいけど。
- ◆ なんかきっかけがあったんか？
- う〜ん、はっきりあったわけやないけど、お母さんがショートステイを利用できるようになった頃かな。
- ◆ オンとオフのスイッチができたんかな。
- 気持ちの切り替えて介護の捉え方も変わったのかもしれない。とにかくいつも楽しそうやった。わたしもよう頼られたで。さっちゃんの頼みやとなんか断られへんねん。
- ◆ へえ。さっちゃんががんばれた秘訣って何やろうな？
- ケアマネさんが聞いたらしい。「わたしは何

があってもどうかなと思って過ごしてきたけど、お母さんにも『何があっても大丈夫って言いなさい』って励ましてた。お母さんのカバンの中に『大丈夫』って書いた紙が見つけたときは感慨深かった」って。

- ◆ お母さん、お守りにしてたんやろね。
- さっちゃんの友達もお母さんの介護してて、便失禁のこと恥ずかしくて話せなかったんやけど、さっちゃんはふつうに笑って話してって。
- ◆ 朗らかな人やね。
- 「なんでそんな話できるの？」って思ったけど、そういう話もしていいんやって気づいたらしい。さっちゃんは「いつもなんでも笑って話できるよ」って。
- ◆ ほんま「コミュカ」高いね。
- でも、誰にも相談せんと「自分でせなアカン」って凝り固まってる人はけっこう多い。
- ◆ なんてかな？ 男性に多いって話、前にしたな。
- こないだネットニュースでも自分の尿で凍死してたって事件やってたけど。
- ◆ 息子さんが見てたお母さんが亡くなったって。いわゆる「8050問題」。
- だから、さっちゃんのケースはほんまに、介護のお手本みたい。何もかも自分で抱え込まん頼るところは頼るって。
- ◆ 身も蓋もない話やけど、経済的な安定も必要なんちゃう？
- たしかにその通り。けど、お金があったってうまくいくとは限らへんからね。
- ◆ それぞれ。うまいこと噛み合ったんやね。
- さっちゃんってなんか憎まれんとこある。ケアマネさんも「あの子はなんか憎まれへん、放つとかれへんよな」って言ってたし、人を動かす何かを持ってるんちゃうかな、知らんけど…。



お出かけ前のえっちゃん



5月のGCK Kidsでは、屋上の畑で子どもたちが育てた大根とイチゴを収穫しました！とっても長くて大きな大根と、すごく香りの良いイチゴに子どもたちは大喜び♪収穫した大根とイチゴを手に持って、お迎えに来たお母さん、お父さんにも得意げでした。次は秋のさつまいもだね！



たぐの 3くふうたま

豊 間

オーバーツーリズム

ハナレバナレになった人とまち。くらしの窓から紡ぐヒントを探してみる。

京都の名所「伏見稲荷大社」が、あまりの混雑に「悪な観光地ランキング」にランクインしたらしい。実は僕の学生時代の思い出の地。稲荷山の裏手の学校の陸上部で、千本鳥居をよく駆け抜けた。自転車移動の僕にとって北に向かう生活動線だったあたりが、交通規制で迂回を余儀なくされるほどの混雑らしい。敷地内での写真撮影のための行列が理由の一つだとか。

そこで、地元民から京都の楽しみ方提案。レンタサイクルがおすすめ（渋滞緩和・プラン変更が容易。早朝や閑散期に走ると、まだ見ぬ京都の自然に出会えるはず。有名寺院や美術館の周囲にも穴場あり。メイン道から外れた街並みも十分京都を感じさせてくれる。市街地を北、東西の三方から囲む山々へのハイキングもおすすめ。川縁でゆつくり過ごすのもあり。

お参りは未社でもいいじゃない。写真で思い出を残すだけじゃなく、目を瞑って心の内の声を聞く一時も旅を豊かにしてくれるはず。
(安田拓也)



宇治の奥にある天ヶ瀬ダムがお気に入り



[安田拓也] 長年愛用しているロードバイクを丸洗いでもらった。普段使いも兼ねているので汚れもみっちり。お陰で輝きを取り戻し、パーテーションも巻き直した。これからもよろしく！



[福井龍磨] 東京の国立ハンセン病資料館で、1953年に出た詩集『いのちの芽』の企画展を見た。全国の療養所から73名が参加した、初めての合同詩集だったという。重く、静かな言葉の世界に浸った。



[西原夏美] 『ゼルダの伝説』の新作、結構面白そうです。やるならせめて前作はしたいけど、時間も無い。『時のオカリナ』『ムジュラの仮面』以降やってないので話がついていけるか不安です。



[西田吉志] よくまわりの人から自転車に乗るイメージがないと言われる僕だが、休日を利用して家族で奈良県明日香村にサイクリングに出かけた。のんびりと自然の風を感じながら古墳や史跡巡りするのもいいもんだ。

葉っぱの吐見

私は草木が大好きです。とくに観葉植物には心癒されます。私と葉っぱとお喋りを聞いてください。



「バラの葉っぱ」の巻

お棘ちゃんはおわたしの相棒。どんなときもずっと一緒。いたずら虫を追っ払い華麗な花をガードする。

かっこ良くてとってもキュート。でも心はとてもナイーブ。

きつとだれも知らないいや、教えない。

わたしだけの秘密。

姿、形は違うふたり。

持ちつつ持たれつのおふたり。

一生相棒のふたり。

赤井まゆみ

バラの葉っぱのこと

小葉が複数並び1枚の葉になる。厚さや光沢の種類は豊富。葉っぱの花言葉は「希望がある」「諦めないで」

いい湯かげん

「少なくなる議員」さんに期待する

維新の会の「身を切る改革」はスビーディだ。横山新市長は、市議定数を81名から70名前後に削減する提案を現在の市議会に提出するようだ。先の統一地方選で維新は単独過半数を得ており、多分採択されることになる。選挙の結果を見れば、身を切る改革は市民の支持を得ていると思うが、横山新市長の議会改革はただ定数削減だけなのだろうか、より深められた改革を期待したいのだが。

市議会の議論は2点あると思う。1点目は、大阪市議は「中之島」では「多すぎる」かもしれないが地域では「少なすぎ」て、住民の声が届かなくなるのではないかとということだ。西成区の人口は約10万人で

泉佐野市と同じくらいだが、市議定数は西成区3人に対し泉佐野市は18人である。西成区ではすでに4月の選挙から定数3人に減ったが、人口12万人の生野区も、今回の定数削減で4から3に減るかもしれない。同規模の松原市の市議定数は18である。

あら探してはいるが、維新は党への支持が高いので、個々の議員の相談活動が弱くても当選する傾向がある。維新の会は、所属議員の活動を厳しく律していられるだろうが、それだけでは「少なすぎる議員」問題は補完されない。選挙とは住民の声を届ける「代理人」を選出する「間接民主主義」だが、横山新市長は住民の声をより多く掘

り起こすための「住民発議」のしくみ、つまり「直接民主主義」に関する案をお持ちだろうか。これが市議会に議論して欲しい1点目だ。

2点目は、議員は住民の声を聴くだけでいいのか、その声の実現にむけて「少なくなった」地域の議員はどう活動していくのかということだ。公募区長が参考になる。

西成区の臣永区長のフェイスブックは良い。臣永区長は、あいらん地区の夜回りや子ども食堂、靴学校、西成高校の靴クラブなどの取り組みに足を運び発信されることで、大阪市のシテイマネージャーとして責任を負ってくれている。

3人しかいない議員も、「中之島」では市政の点検役、「地域」各所では公募区長と同じシテイマネージャーになってくれているのではないのか。しかし気をつけないと、維新一強の大阪市では、「利権」とは言わないが「我田引水」になってしまうかねないので、何らかの制度が必要だろう。西成区選出の議員さんから横山新市長に提言してくれないか。

皮算用 胸算用

GWが明けてすぐ、東京銀座で白昼堂々と高級時計店を襲い時計を強奪する事件が起きた。昭和生まれの私にとっては衝撃的な事件だ。闇バイトで勧誘した若者に指示をだして強盗を働かせるという形態の事件が頻発している。この事件もその一つだろう。おれおれ詐欺の延長線上にこんなことが起こっている。

日本社会全体の経済状況がちっとも良くならない時代の中で、置き去りにされている若者が犯罪に巻き込まれているのではないのか。若者に犯罪を促すそんな社会で良いはずはない。インターネット上で匿名者同士が簡単にやりとりできる情報インフラの「罪」が露呈しているのに、なぜこのインフラへの法規制ができないのかわからない。政治の怠慢ではないのか。若者を包摂する社会に変化しないと状況はさらに悪化していくにちがいない。

(寺本良弘)



さて、うんと卑近な地域の希望を申したい。たとえば、臣永区長も考えてくれている西成区や浪速区の靴産業振興のための人材育成について。はたまた、民設置民運営で「無認可」隣保事業のままの「にしなり隣保館」の市民活動について。区長と区選出議員が、いわば「内閣」のようになって、「中之島」の市議会に向かって住民参加で政策立案、場合によっては条例案を作ることはできないのだろうか。前にもボクは『なび』で書いたが、議員はただ減らすだけ、市有地はただ売るだけ、それで改革は成るのだろうか、新市長と市議会に注目したい。



富田一幸

人間のしあわせ、福祉のあり方、そして新しい社会の結びつきを求めて、これからも「いい湯かげん」のテーマ探しに出かけます。



[若松司]日本酒にちくわさを合わせた。鼻を突くわさびの刺激を和らげようと酒を口にも含むと、刺激がほどけて香りが立った。日本酒の甘み、わさびの香り、ちくわの旨味。些細な至福を味わった。



[山村裕太]昔から阪神ファンですが、最近は野球を見なくなったので、阪神でも知らない選手がたくさんいます。今年は1回くらい甲子園に阪神戦見に行きたいなあ。行ったら負けるけど。

地域の縁を心でつなぐ

心の時間



松向寺 通法

い水槽の中で一生を不幸だと思っただけで、決まった時間に餌をもらえて幸かも知れない、と。魚たちの幸／不幸は私が決めることではないのですが。

「幸せハンス」というグリム童話をご存知でしょうか。この話は「わらしべ長者」の逆で、金塊を持って母親の元へ帰るはずが、物々交換を経る度に安価な物に変わっていきます。しかしハンスはそれに幸せを感じ、最後の交換で得た重い石を井戸の中に落とし失って「身も心も軽くなった」と喜び、母親の元に帰り着いたのです。

水族館の魚とグリム童話を思い出し、友人の人生を勝手に「不幸」とみた愚かな見方を反省し、敬意を表すことの大切さに気付きました。

松向寺 通法

友人のことです。勤めていた会社が倒産し、気づけば癌を患い、昨年この世を去りました。「禍福は糾える縄の如し」のように幸と不幸は交互にやってくるらしいのですが、友人の人生は不幸な出来事の方が多かったのではないかと……

先日、水族館に行ったとき魚を見ながら「この魚たちは幸せなのか？」と考えました。狭

ココドコ

ここはどこ？
わたしはぜんぜん？
編集部が厳選した
「にしなり100景」
大公開！

船の形をした遊具。あちこちに散りばめられた魚のイラストや、赤と青のポップな配色がかわいいですね。サイズもそこそこ大きいので子どもたちが楽しく遊べそうです。ココがドコだか答えを知りたい人は、ゆ〜とあいの受付までお問い合わせください！

【先月号の答え】

津守3丁目1の旧大阪市立津守小学校でした！現在は子どもの遊び場「にしなりジャガビーパーク」として、定期的にオープンしています。



2023年3月撮影

ゆ〜とあい

にしなり隣保館

にしなり隣保館「スマイル ゆ〜とあい」は、地域コミュニティ全体が抱える課題の解決をめざす民設民営の福祉施設です。日々悩んでおられる困りごとはありませんか？お悩み解決のためにできることをいっしょに探しましょう。

なび6月号(vol.196)

発行日:2023年6月1日(創刊日:2007年1月1日)

発行:株式会社ナイス

住所:大阪市西成区長橋3-6-33

電話:06-6563-1150

E-mail:info@nice.ne.jp

url:https://www.nice.ne.jp/

編集長:若松司

編集:沖田一志、笹川勝正、田岡秀朋、西田吉志、西原夏美、福井龍磨、安田拓也、山村裕太(あいうえお順)

イラスト:hidarimaki デザイン:谷口円

(株)ナイス
ホームページ

